

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	市民クラブ (中道博武、鈴木伸之、是枝貴裕)
視察・研修名	(1) 氷見市「能登半島地震における氷見市の被災状況と復旧・復興の取組み」 (2) かほく市「人口増加に向けた移住・定住促進施策」
視察・研修の 目的	事業実施に至る背景・経緯、概要、効果、課題等について
目 時	令和7年11月11日(火)～13日(木) ※行政視察=11月12日・午前10時/午後2時
視察研修の 概要	<p>(1) 氷見市「能登半島地震における氷見市の被災状況と復旧・復興の取組み」</p> <p>【日時】 12日(水) 10:00～12:00</p> <p>【担当】 氷見市議会 副議長 萬谷 大作 氏 次長補佐 山崎 雅郎 氏 地域振興課 主査 舛田 建治 氏</p> <p>①経緯 令和6年1月1日(16時10分)、能登半島及びその周辺に最大震度7の地震が発生し市内各所で建造物やライフライン等の被害が発生。 地震災害による被害の規模や復旧・復興等の取組み、そして備えや対策について確認</p> <p>②内容(被害状況)及び対策 ・家屋の倒壊・半壊、土地の隆起や液状化が発生。水道の全面復旧には3週間を要す。 ・現在も復旧工事を進行中 ・災害を教訓に「情報伝達」「避難所の迅速な開設」「避難所の環境改善」「防災士の育成」を柱に防災対策の見直しを実施 ・市議会で「災害対応指針」を策定</p> <p>③効果 災害に備える体制強化や訓練の重要性を含む意識の高揚が図られた。</p> <p>④課題 現時点で災害対策に関わる問題等はなし。ただ、災害発生時における情報伝達や迅速な避難所の開設は重要な課題であると認識している。</p> <p>⑤その他 ・普段からの防災意識の醸成や地域コミュニティの確立が災害発生時はとても有効になってくる。 ・災害の発生を想定し「〇〇を持って、〇〇のルートを通って、〇〇に非難する」というような行動パターンを持つことも重要</p> <p>※ 詳細は別添資料のとおり</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

視察研修の
概要

(2) かほく市「人口増加に向けた移住・定住促進施策」

【日時】 11日(水) 14:00~16:00

【担当】 かほく市議会 議長 金子 猛 氏
副議長 野田 稔彦 氏
事務局長 西盛 豊樹 氏
地域創生課 課長 新井 三盛 氏
係長 吉田 奈央 氏

①経緯

近年は人口減少に伴い都市部を除く各市町村で人口規模の縮小が顕著にある。生産人口の確保が難しくなっている中、出生数や若年層を中心とした人口が増加傾向にある状況を調査

②内容及び対策

- ・かほく市の行政面積は砂川市よりやや小さい64.36㎢で、人口は約36,000人。人口及び世帯数はおよそ20年前から微増傾向が続いている。
- ・人口確保対策として「出生数」に着目。
- ・他市町村で見られる子育て支援をおよそ実施する一方で、若者をターゲットに「とりあえず住んでもらう」「結婚してもらおう」「子どもを産んでもらおう」「家を建ててもらおう」というようなライフステージに応じたトータル支援を展開。
- ・本市にはないものとして、具体的には新婚世帯の家賃補助(2年間・子どもを出産した場合は1年延長)、転入者への家賃支援、奨学金返還支援、子ども屋内運動施設の設置がある。

③効果

- ・若年層の移住が多くみられるようになり、子どもの数がV字回復した。

④課題

現時点では特筆すべき課題は見受けられない。

⑤その他

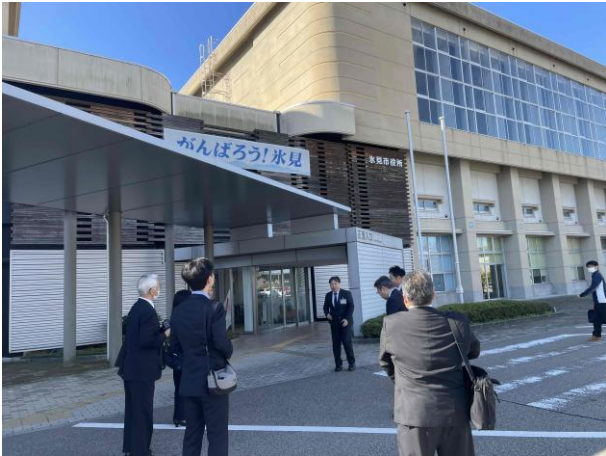
- ・まちの魅力や支援制度などを、テレビCMをはじめ、公式インスタグラムの運用、YouTubeの活用など情報発信を積極的に展開している
- ・かほく市では「職員提案制度」を実施し、若手職員から意見を吸い上げる正式なシステムが確立
- ・地域におけるワーキンググループの実施などを行い、若年層が「こんなまちになって欲しい」という想いを情報として収集

※ 詳細は別添資料のとおり

以上

研修の様子

(1) 氷見市



(2) かほく市

